



この通信は、高島町在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」）における在宅医療と介護の連携状況を随時お伝えするものです。

協議会「全体会」に70名が参加！ 令和元年度の事業計画を決定しました

5 月 24 日（金）午後 7 時から、げんき館において本協議会の「全体会」を開催しました。



「協議会 全体会」

「全体会」の主な協議内容は

1. 平成 30 年度の事業報告

平成 30 年度に実施した事業について、事務局より報告があった後、各専門部会活動内容について、各部会長より文書で報告されました。

2. 令和元年度事業計画(案)の審議

次の事業に取り組むことを決定しました。

①町在宅医療・介護連携センター事業の推進

- ア. 町在宅医療・介護連携推進協議会の運営
- イ. 各種研修会の開催(多職種研修会・医療介護等に関する研修会)
- ウ. 在宅医療・介護相談事業
- エ. 多職種情報共有支援
 - ・在宅療養者 ⇒オキトピアⅡ、つながる安心ノート
 - ・情報共有 ⇒kintone (キントーン)

②支援困難事例の多職種検討会の開催

- ア. 「見える事例検討会」多職種研修会 1 回
- イ. 多職種に対する医療系の研修会 1 回

③専門部会活動の活性化

- ア. 医師部会
- イ. 歯科医師部会
- ウ. 調剤薬局部会
- エ. 看護介護部会

専門部会ごとに方針決定

④24 時間対応の在宅医療提供体制の構築

- ア. 医師部会中心に具体的な検討
- イ. 訪問看護ステーションの利用拡大
- ウ. つながる安心ノートの利用拡大

⑤町民対象の啓発講座開催

⑥南陽市・東置賜郡医師会等との連携

3. 講演会

協議会の事業として、平成 29, 30 年度の 2 か年で実施した町民啓発講座「人生の終い方」。その実施結果の分析、考察を NPO 法人地域健康プラン理事の中村翔医師より講演をいただきました。



「中村翔先生の講演」

—講演内容—

町民啓発講座「人生の終い方」は、自分の終活、親の終活から人生最期の時をどう過ごし、どこで迎えたいか、参加者とともに考える講座で、在宅医療を進めるうえで町民の意識、価値観を知

る機会となりました。

人生最期の時は、自宅で迎えたいと思う人が7割を超えているものの、「家族に迷惑をかけたくない」、「看護、介護してもらう人がいない」などの理由で「病院」や「施設」を選ばざるを得ないと考えている人がとても多いという結果に。

これこそが、在宅医療・介護連携の大きな課題だと思います。家族の負担が少なく、自宅で看取れるサービス・体制を作り、それを町民に理解してもらうことが重要だと再認識しました。

中村先生、ご講演ありがとうございました。

懇親会では47名が顔の見える交流！

夜遅くの開催にも関わらず47名が参加。この協議会が発足して6年目。顔の見える関係も、こんな飲みにケーションがお役に立っているかも！



「懇親会、土屋副会長が中締め」

在宅医療・介護連携研修会を開催！

とき 6/19(水) 19:00～ げんき館

演題 「在宅医療における調剤薬局の役割」

講師 酒田地区薬剤師会カイエイ薬局長

富樫健一先生

企画 調剤薬局部会

共催 南陽・東置賜地区薬剤師会・小野薬品工業(株)

参考展示 服薬支援ロボット、福祉機器など

参加者 60名

座長 島崎調剤薬局部会長

コメンテーター 高畠病院 白鳥薬局長

—講演内容—

最初に、カイエイ薬局の活動内容の紹介がありました。平成22年から無菌調剤可能な薬局として在宅医療を開始し、平成30年4月から(一社)酒田地区薬剤師会カイエイ薬局として活動を開始したことの説明があり、続いて本題の「在宅医療における調剤薬局の役割について」ご講演いただきました。

講演は、①課題 ②取り組み ③今後の展望の流れで話しが進み、訪問では、患者さんの話を聞くこと、それを主治医に伝えることが重要であること。薬局業務では、診療・介護報酬上評価されていない部分もあるが、やらざるを得ないこと。

日本海総合病院と保険薬局の訪問服薬指導の流れで、医師と薬剤師の連携不足があること。介護現場からの訪看・ヘルパーさんとの連携が大事であることなど。実際に在宅医療を実践している経験からのお話しは、大変参考になったと思います。富樫先生、大変ありがとうございました。



「富樫健一先生の講演会」

通信コラム

調剤薬局部会長 島崎 尚弧

カイエイ薬局の富樫健一先生を講師に迎えての在宅医療・介護連携研修会は、色々な方のご協力・ご尽力のおかげで、薬剤師だけでなく多職種の大勢の方にご参加いただき、盛大に開催することができました。

医師、看護師、ケアマネージャー、介護スタッフなど様々な職種と連携を取ることで、もっと患者さんと寄り添っていけるのかなと感じました。

粕川会長の挨拶にもありました通り、まずは、病院薬剤師と保健薬局の薬剤師の薬業連携を強くしていきたいと思います。